



2013.11 vol.23

SEASON

DA-VINCI

WHITMAN

HUGO



M.CURIE

NAVOIY

TOLSTOY

TAGORE

2 創大祭読書展

3 創大生を見守る偉人たち

8 図書館書簡

偉人たちが 見守る 創大生を



今回のSEASONでは、彼らの像と共に、著作や伝記などの関連した書籍を、SBWに寄せられた感想文を交えながらご紹介していきます。

地内に設置されています。

「万能の天才」ダ・ヴィンチ。「詩聖」タゴール。「フランスの国民的詩人」ユゴー。「ロシアの文豪」トルストイ。「自由詩の父」ホイットマン。「女性初のノーベル賞受賞者」キュリー夫人。「ウズベク文学の父」ナワイ。誰しもが、一度は耳にしたことのある偉大な知性たち。彼らの全身像がこの創価大学の敷地内に設置されています。

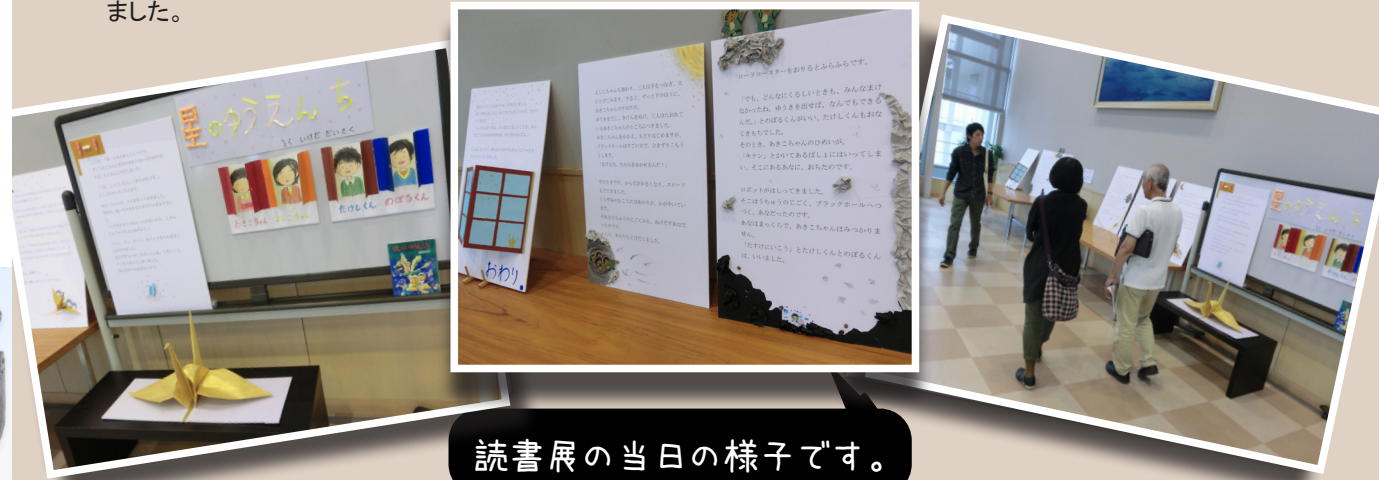
昔から秋は「読書の秋」と言われます。読書推進運動協議会が薦める読書週間が、今年は10月27日から行われました。皆さんはこの秋にどのような本を読まれましたか。

昔から秋は「読書の秋」と言われます。

創大祭読書展

創大祭期間中、中央図書館でSRP(Soka Reading Project)主催による読書展が開催されました。

当日は、ひとつの本についてスタッフと参加者で語り合う「読書会」をメインに、大型の飛び出す絵本を作成して展示をした「親子向け部門」。本の中から名言をピックアップして、その本とともに紹介する「名言部門」。読書効果や、図書館を映像で紹介する「スクリーン部門」の4つの企画を行いました。多数の方に来場して頂き、ありがとうございました。



読書展の当日の様子です。

SBWとは！

創価大学全学読書運動・Soka Book Wave (SBW) は2004年度より図書館と学生諸団体が協力して実施してきた、全学的な読書運動です。

創立者が提唱される「活字文化復興」を実現するため、創価大学、創価女子短期大学から「読書の波」を起こそう、との学生の強い熱意で始まりました。読書した図書感想文やショートレビュー、書評を提出することでポイントが付与されます。そして、貯まったポイント数に応じて図書カードなどが贈呈されるというシステムです。

昨年には、私立大学図書館協会賞を受賞しました。



多くの名著に触れることで人間性や知識が高まり、感想文を書くことで文章力も養われます。そして図書カードも貰えて、新しい本が買えちゃう！良いことづくめのSBWに、皆さんも是非ご参加ください！



キュリー夫人は女性初のノーベル受賞者であり、また異なる分野（物理学賞・化学賞）で授与された最初の人物ともなりました。短大敷地内にあるキュリー夫人像は、1915年の写真をもとに制作されたものです。第1次世界大戦のさなか放射線治療班を組織して、負傷兵の看護に奔走した時期の姿です。

M. CURIE キュリー夫人

SBW 投稿感想文

二十世紀を変えた女たち

川島慶子著

欧米の女性はとても自律しており、二十世紀に活躍したキュリー夫人やシャネルを軸として女性が働くことの基盤が確立したように思えます。フランスと比較して、日本の女性はまだまだ仕事に対する意識が低いように思えました。キュリー夫人の信念を貫き通して成功を収めた成果は非常に心に響きましたし、逆境をも跳ね返す意志の強さには感動しました。シャネルに関しては、まさに働く女性の鏡であるように思えました。数多くの恋愛をしながら仕事でも大成を収めていて、結婚よりも仕事を優先する姿勢や意志の強さには大変憧れます。要するに、強い意志を持つことが女性が働くことに関して重要なだと学ぶことができました。

母と娘の手紙

マリー・キュリー、イレーヌ・キュリー著

キュリー夫人とその娘イレーヌは、約30年間にわたって往復書簡を続けていました。その数は400通に及びます。科学者としてではなく、母としての愛が感じられる手紙でのやり取りです。

ホイットマン —時代と共に生きる

吉崎邦子著

伝統的なイギリス詩とは異なり、自由な発想とエネルギーに満ちた詩を生み出したホイットマン。彼の精神的、文学的成長過程、また「草の葉」が20世紀のアメリカ詩に与えた影響について論じている1冊。

SBW 投稿感想文

キュリー夫人伝

エーヴ・キュリー著

この『キュリー夫人伝』を読んで、今の時代にこんなにも貪欲に勉学に勤しみ、没頭できる人がどれだけいるだろうかと考えさせられました。私に置き換えてみれば、できないとってしまうほどでした。死の直前まで、戦い抜いたマリー・キュリー、自分を信じ貫き通して生きることがどれだけ大変なことなのか、さまざまなことを本書は私に教えてくれました。絶望に満ちても決して止まってはならないこと、自分にできることを最大限にすること、幸福とは何かを改めて本書を読んで考えることができました。

SBW 投稿感想文 草の葉

ホイットマン著

自由、平等、友情や民主主義などを謳える詩句が次から次へとほとぼしっている。形式にとらわれない情熱的な歌で、奔放ですらある。だが希望にあふれる新世界アメリカを表現するのに、これ以上のものはないだろう。人間に対する愛と信頼が感じられ、楽しい気持ちになれる。



WHITMAN

ホイットマン没後百周年を記念して、ホイットマン協会が彼の墓地があるカムデン市に像を設置しました。その折、協会の支援者でもあるブラスナー博士が協会に対し、それと全く同じ像を創価大学に贈りたい、と申し出てくださったことがきっかけで、このホイットマン像が設置されました。



池田記念講堂1Fロビーには、風雪を勝ち越え、豊かな髭を蓄えた晩年の風貌で、腕を組み、「信念」の巖のように、堂々と屹立しているトルストイの像が悠然と立っています。

TOLSTOY

闇の力

トルストイ著

善良な資質を持ちながらも自らの金銭欲などにより、深い「闇」の中に墮ち込んでゆくニキータ。次第に自ら犯した罪に慄くようになる彼は、敬虔で善良な父の導きにより「闇の力」に打ち勝つためにある決断を下します。

民主主義の展望

トルストイ著

19世紀中期、すでに民主国家であったアメリカに、なお存在する著しい社会の不正や不平等を鋭く指摘し、民衆の力を信じつつ民主主義精神の重要性を説いた作品。

SBW 投稿感想文 草の葉

ホイットマン著

全ての人が平等であるとうたい、一言一句が力強く、何ら迷いのない叫びは、私の心に強く響いてきた。語尾には「…のだ。」という終わり方がたくさんあり、皆に訴えているようであった。一人の人間がこうも視野を広げ、未来を見据え、堂々とあらゆるものを詩で表現するところに深い感動を覚えた。

ホイットマン

トルストイ

トルストイの生涯

藤沼貴著

トルストイのように、徒党を組まず、武力を使わずに権力と戦った人物は歴史上ほとんどいないでしょう。偉大なトルストイの幼少期から、その死までを追う。

SBW 投稿感想文

アンナ・カレーニナ

トルストイ著

「復讐は我にあり 我これを憎む」これは、トルストイが上・中・下巻すべてに記したテーマである。本書を読むときは、常に上の言葉を胸に抱いて本書を読み進めていきたい。

トルストイの作品群でも不朽の名作『戦争と平和』に次ぐ長さを誇る本作品。その中で、この上巻は単なるプロローグとしてでは言い表せない内容が込められている。後々、大きな意味をもつ鉄道での飛び降り事故しかり、キティ、レーヴィン、ウロンフスキー、アンナの四角関係またしかり、である。

SBW 投稿感想文 ホイットマン詩集

ホイットマン著

ホイットマンの人生観がとても感じられる作品集であった。様々なテーマがあり、一番いいと思ったのは、いのちの価値観を考えさせられる言葉があって、人生は戦った人であればあるほど収穫があると思った。



ルネサンス期に活躍した万能の天才、**ダ・ヴィンチ**の像が本部棟に設置されています。左ききであったダ・ヴィンチが、左手にペンを持ち、右手のノートに、ほとぼしる思念を書き付けようとしている姿をかたどっています。

DA・VINCI **ダ・ヴィンチ**

SBW 投稿感想文

レオナルド・ダ・ヴィンチ芸術と科学

カルロ・ペドレッティ【ほか】著 ラーン・大原三恵 小林明子訳 前田富士男監修・監訳

いつの時代も万能の天才といわれ続けたレオナルド・ダ・ヴィンチ、本書は彼についての謎を解明するというもので、美術の参考書にと選んだ一冊である。

本書を読み、私自身美術を専門的に学んでいるわけではないが、レオナルド・ダ・ヴィンチという偉人の思想に触れ、彼の哲学から多くの事を学ぶことができた。

彼の作品はそのほとんどが、未完成のまま終わっている。多くの考え方があがるが、彼が完成を求めたのではなく、そのもの自体に満足せず、より高度な次元へという彼の向上心から彼の作品は完成しなかったのではないだろうか。私は本書からそう感じさせられた。「未完成の完成は」同時に「完成の未完成」なのである。

中央アジア 歴史群像

加藤九祚著

本学で教鞭をとられていた加藤九祚先生の著作『中央アジアの歴史群像』のp.153-173 にナワイーについて詳しく紹介されています。彼はウズベク語とペルシア語の比較書を著し、数多くの詩を残しており、「ウズベク文学の父」と呼ばれていますが、日本では彼に関する本は多くありません。

ナワイー

NAVAYI

アリー・シェール・ナワイー（ナヴオイ）は15世紀に活躍した、詩人・画家・政治家です。「中央アジアのゲーテ」とも呼ばれています。池田記念講堂前庭に立つナワイーの像はウズベキスタン政府から寄贈されました。ウズベキスタン共和国にはナヴオイ・オペラ・バレエ劇場、ナヴオイ文学博物館といった、彼の名を冠した施設があります。



「フランスを代表する国民的詩人」、それが**ユゴー**です。日本ではレ・ミゼラブルや九十三年の作者として有名です。ユゴー像の台座には、「海洋よりも壮大なる光景 それは天空である 天空よりも壮大なる光景 それは実に人の魂の内奥である」という、レ・ミゼラブルの一節が刻まれています。

HUGO

ユゴー

SBW 投稿感想文

ヴィクトル・ユゴー文学館 第1巻

ユゴー著

本書で私が好きなものは、「懲罰詩集」である。圧制者ナポレオン3世を厳しく責めるその鋭く、苛烈な詩は当時のフランスで大いに詠まれた。思うのは、彼がナポレオン3世を痛烈に批判するに至るまでの過程においてユゴーは何を感じたのだらうということだ。かつてユゴーはナポレオン3世の支援者として、大統領候補である彼を選挙にて大いに賞賛した。その背後には民衆のための政治という理想とナポレオン1世への尊敬の念があった。しかし、やがて権力の座に執着し、フランスの民衆に圧制を加えるようになった3世と袂を分かち、ユゴー自身が迫害を受けるようになる。「あと千人しか残らなくなっても、よし私は踏みとどまろう！あと百人しか残らなくなっても、私はなおスラに刃向おう。十人残ったら、私は十番目の者となろう。そして、たったひとりしか残らなくなったら、そのひとりこそはこの私だ！」亡命先での不屈の闘争心がこの詩には込められている。

SBW 投稿感想文 **ギタンジャリ** タゴール著

文面に、偉人の精神性がほとぼしっており、読み入る内、いつしかタゴール本人と対話している様な錯覚に捕われた。高潔な人格に触れて目の覚める思い。

タゴール

TAGORE

タゴールはアジア初のノーベル文学賞受賞者で、「詩聖」と呼ばれています。タゴール広場に立つ彼の像は、インド文化関係評議会のデサイ長官が創大を訪れた際、記念講堂のユゴー、トルストイ、ホイットマンの像に感銘。「アジアの象徴として、タゴールの像をぜひ創価大学に」との強い希望で創大に寄贈されたものです。



図書館書簡

としょかんしょかん

語学学習コーナー設置の紹介

中央図書館1階に、語学学習コーナーを設置しました。
充実した資料で皆さんの語学学習をサポートします！
語学学習用の雑誌も充実しました！
貸出も可能です。館外での学習にもお役立てください。



中学生職場体験

9月10日から12日の3日間は甲ノ原中学校の生徒さん
9月18日から20日の3日間は石川中学校の生徒さんが中央図書館で職
場体験をされました。
図書館の仕事を通じて「勤労観」「職業観」を育むお手伝いをさせて頂きま
した。

12月の入庫講習会予定

創価大学中央図書館には約100万冊の蔵書があります。ですが、そのうち
約80万冊は皆さんが普段は入る事ができない書庫と呼ばれる場所にあります。
書庫の中の資料を読むときは1冊ずつ申請が必要ですが、入庫講習会
を受ければ自由に書庫に出入りできるようになります。普段見られないような
論文集や雑誌を発見できるチャンスですので、奮ってご参加ください。

開催日時

12月

9日	16:45-17:45	10日	13:30-14:30
11日	13:30-14:30	12日	16:45-17:45
13日	13:30-14:30		

創価大学 附属図書館

〒192-8577 東京都八王子市丹木町 1-236

Tel : 042-691-3191 Fax : 042-691-9308

<http://lib.soka.ac.jp>